





# 審査結果報告書

2019年9月11日

主査 氏名 鈴木隆浩   
副査 氏名 堤 明純   
副査 氏名 石山博條   
副査 氏名 山下 拓 

1. 申請者氏名 : 上見 葉子

2. 論文テーマ : Prospective evaluation of the G8 screening tool for prognostication of survival in elderly patients with lung cancer: A single-institution study  
(高齢肺癌患者における生存の予後予測ツールとしてのG8スクリーニングツールの前向き研究: 単一施設研究)

3. 論文審査結果 :

上見葉子氏による本学位論文は、高齢肺癌患者におけるG8スクリーニング法の有用性について検討を行ったものである。高齢者では様々な身体機能が低下し、若年者と比較して抗腫瘍療法の有害事象が出現しやすいため、事前の機能評価が重要である。しかし、現時点で有効性が証明されている高齢者総合的機能評価法(CGA)は評価項目が極めて多いなど、診療現場での施行には大きな問題が存在していた。そこで、上見氏らは今回の研究でCGAの簡易版と言えるG8スクリーニング法の有用性について、自施設の化学療法(+放射線療法)を受けた進行肺癌患者101名を対象に検討を行った。その結果、氏はG8スコアが実際の治療強度と相関しており、またG8は全生存率の強い予後因子であることを明らかにし、G8スクリーニングが高齢肺癌患者の適切な治療量の決定などにおいてCGAの有用な代用ツールとなる可能性を明らかにした。

本研究は、高齢者に対する化学療法についてインパクトを与える意義深い研究であると考えられる。また、論文審査会における上見氏の発表内容、およびその後行われた審査員との討議内容も十分に評価できるものであった。

以上より、審査員一同、上見氏による本学位論文は学位授与に値するものと判定する。